

■ 編集委員

齋藤 一之 (委員長)

板橋 明 糸山 進次
中塚 貴志 西村 重敬
和田 攻 (五十音順)

菰田 二一
禾 秦壽

鈴木 洋通
廣瀬 隆則

竹内 勤
間嶋 満

土田 哲也
渡辺 修一

■ 編集後記

埼玉医科大学雑誌30巻2号をお届けします。埼玉医大誌もオンラインで読めるようになっています。さらに、多くの雑誌がオンラインで投稿できるようになります。投稿から掲載まで期間が短くなったことは、発信元から受け手までの情報伝達時間が短縮し、情報較差が減少したことを意味します。インターネットの時代では、研究成果のpriorityが、月日ではなく分時の単位で争われていることが、現実となっています。

このような時代に、埼玉医科大学雑誌の存在意義を考えていかなくてはなりません。学位取得のための研究成果を発表する論文が多く掲載されるのが、本誌のみならず一般の医科大学雑誌の特徴です。執筆者は、科学論文を始めて書き、投稿した方が多くを占めています。大学院の限られた期間内の研究成果を、論文にまとめた方もあります。本誌での論文を、研究成果の第一歩として、今後活躍をしていく方も少なくありません。このような人達が、初期に論文の書き方の基礎をしっかりと学ぶことは重要であり、指導者はその教育の義務と責任を負っています。

本誌の査読者は、科学的新知見の重要さの判断に加えて、論理の展開、議論の整合性等の論文構成および文章の書き方も評価し、意見を述べることが必要と考えます。特に、始めて書いた論文には、重複、ずれ、飛躍あるいは知見をすべて羅列する、研究結果と関係ない一般論的な議論が多くを占めてしまうなどの欠点がしばしば見られます。文章も、頭から読んで分かりにくい複雑な文となりがちです。また、考察部で、結果で示さなかった新たな所見を述べて、考察を加えるという初歩的な誤りを犯している論文もあります。「Simple, straight, shortに書きなさい。文章は、パラグラフを意識して組み立て、主文をパラグラフの最初に置きなさい。文と文との論理関係を意識しなさい。」と留学中の恩師に指導され、このように書かないと彼らには理解できないのだと悟りました。

本誌は、始めて論文を執筆する人達に、新知見を発表する機会と科学的な文章の書き方を学ぶ機会を、与えています。第三者に分かってもらいやすい文章の書き方の修得は、医師と研究者に必須のことです。医師は、学生時代、卒後の初期研修の時代にも、科学論文の書き方の指導と訓練を、十分には受けていません。卒後とはいえ、学ぶ機会を与えることは重要です。しかし、学ぶ機会を与えながら、掲載される論文の質を向上させていくには、関係者の通常以上の努力が必要です。研究の指導を行いながら、査読者、編集者を兼ねている我々の責任は大きいものがあります。

(西村 重敬)

埼玉医科大学雑誌

<http://www.saitama-med.ac.jp/uinfo/jsms/>

第30巻 第2号 通巻109号 (季刊)

編集責任者

齋藤 一之

平成15年3月25日 発行

発行所

埼玉医科大学医学会

350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38

電話 049(276)2125 (直通) FAX 049(276)2127 E-mail: igakkai@saitama-med.ac.jp

郵便振替 00540-6-19727

制作

株式会社アテネデザイン

東京都港区三田1-11-19 小宮ビル2階 電話 03(3456)5741 (代) <http://www.atene.co.jp>